

▶2014 年度 第 22 回 NPO STARS フォローアップセミナー報告書

「変えよう・変わろう！すべての子どもの幸せのために
～ヨーロッパの研修からみえるこれからの社会的養護の役割を考える～」

日 時 2014 年 7 月 5 日（土） 午前 10 時～午後 4 時

場 所 資生堂大阪ビル

参加総数 72 名（講師 1 名・NPO 会員 51 名・非会員 20 名）

セミナープログラム

第 1 部 講演 榊原智子 氏 読売新聞東京本社編集局社会保障部次長

「すべての子どもの幸せのために」

第 2 部 報告 2013 年度第 39 回資生堂児童福祉海外研修団員

第 3 部 シンポジウム 「変えよう・変わろう！すべての子どもの幸せのために
～ヨーロッパの研修からみえるこれからの社会的養護の役割
を考える～」

児童自立支援施設 広島県 広島県立広島学園 福田義浩 氏（37 期）

児童養護施設 福岡県 報恩母の家 藤江 恵 氏（38 期）

母子生活支援施設 京都府 野 菊 荘 平尾一乃 氏（39 期）

コーディネーター 元昭和女子大学人間社会学部福祉社会学科教授

高橋久雄 氏（39 期団長）



2014 年度 第 22 回 NPO STARS フォローアップセミナー報告書

「変えよう・変わろう！すべての子どもの幸せのために
～ヨーロッパの研修からみえるこれからの社会的養護
の役割を考える～」

概要

第 1 部 講演



読売新聞東京本社編集局
社会保障部次長である榎
原智子氏を講師として迎
え、「すべての子どもの
幸せのために」というテ
ーマのもと、講演が行わ
れた。榎原氏は 39 期の
海外研修にも一部同行さ
れた。フィンランドでは
妊娠期からの切れ目のな
い支援を国の普遍的なサ

ービスとして具現化しており、その取り組みは国を超え大きな関心を集めていること、そしてわが国でも 30 の自治体によって、ネウボラモデルを参考にした、すべての子どもと家族を支える仕組みづくりが実践されていることなどについて紹介された。

また、近年の子どもの事件や若年出産の現状、40 歳代の引きこもり等の問題に触れながら「子育てが困難になったのは母親が変わったからではなく社会が変わったから」であり、その現実に対し、「社会が子どもと家族を支援するのは当然である」と指摘。「保育はすべての子の社会的発達のために保障するもの」への認識の変革を訴えた。さらに、我が国には、乳幼児期からの安定した愛着関係の重要性など、医学的根拠に裏づけられた共有できるエビデンスがないことについても指摘され、福祉の分野だけではなく、医療分野など周辺領域の専門家を巻き込み、協働していくことの必要性についても言及された。我が国が推進する「子ども子育て支援新制度」について、「すべての子どもと家族の応援」という理念がどれだけ具体化しているのかという榎原氏の問題提起に対して、私たち社会的養護に携わる者は今後の実践の中でその回答を示していかなければならないと感じた。

第 2 部 報告

フィンランド・オランダでの研修を終えた第 39 回資生堂児童福祉海外研修団が、視察研修で学んだ子どもと家族に対する予防的支援を中心とした子ども家庭福祉の展

開と、関連する機関が、社会資源とネットワークを作り協働する取り組みについて報告を行った。また、身近な支援者チームをつくること、



家族リハビリの視点を持つことの大切さについて確認し、その実践にむけて決意表明を行った。会場に展示されたフィンランドの「育児パッケージ」は講演や報告の中にも出てきたものであるが子育てをスタートするのに社会に歓迎されていると実感できる素晴らしいものであった。

第 3 部 シンポジウム

37～39 期の 3 期に渡るヨーロッパ 6 国での視察研修で学んだ内容から、「予防的支援」「多分野協働」という二つのキーワードを抽出し、各国の特徴的な



取り組みを 3 名のシンポジストが報告した。国の成り立ちや文化・教育・経済的な課題などは異なるが、ヨーロッパの児童福祉の根底には、子ども（家族）を中心とした制度が定着しており、それぞれの国の事情に応じて展開されているところである。子どもは国の宝であり、人生初期（妊娠期）から積極的に財政投資を行うことにより、虐待の発生予防はもとより、将来の社会保障費を抑制するという明快さが見て取れる。また、多分野協働においては、行政の積極的な関与や優先的な予算措置が行われているスウェーデンやデンマークをはじめ、数々の虐待死事件と機関協働のあり方を検証して法整備が進められたイギリスの LSCB など、我が国の機関協働のあり方に大きなヒントを示す報告を行った。

その上で、社会的養護に携わる私たちが「すべての子どもと家庭のために」何ができるのか、社会的養護の枠を超え、既存の制度に捉われず、実践するためには何が重要かという視点で、提言を行った。第 1 部の榎原氏の講演の内容も踏まえ、「変えよう・変わろう」という当セミナーのテーマに基づき、3 名からは、社会に向けて「発信していくこと」の重要性について力強く意見が述べられた。その後会場の中から、思春期の子どもたちの居場所づくりなど今の日本が抱える課題が事例をもとに紹介されたり、資生堂児童福祉奨学生の 5 名の方々から、セミナーに参加しての感想という形で非常に前向きなメッセージが発信されたりなど、時間は十分でなかったが、意義のある意見交換を行うことができた。

成果と課題

フォローアップセミナーは、その名の通り、資生堂児童福祉海外研修修了者のその後の活動意識を確認・強化し、更なる成長と活躍へのステップの機会とするものである。具体的には、セミナーの企画・運営や参加を通して、研修後に生じた自分自身の価値観や仕事上の変化、あるいは新たな発見、実践での応用などについて報告・提言されるというところに意義を持つ。同時にそれは、これからの社会的養護におけるひとつの道しるべとなる可能性を秘めている。

今回のセミナーは、ヨーロッパ6ヶ国の視察研修の集大成という位置づけのもと、

- ①訪問国の子ども・家族に対する施策や制度を具体的に紹介しながら、我が国におけるこれからの子育てのあり方を考え、目指すべき道筋について議論を深めること
- ②すべての子どもの幸せのために私たちができること、すべきことについて確認し合い、私たち自身の変革も含めた新たな提言をすることを目的とした。

第1部の榊原氏の講演では、日本における様々な現象や事件から見える、我が国の子育て支援の現状と課題が示された。榊原氏の「何か行動を起こし、そしてその実践を教えてください。それを伝え広めるのが私たち仕事です」との言葉に、多くの参加者が士気を鼓舞されることになった。

これを受ける形で進められた第3部のシンポジウムでは、多分野協働と予防的支援を中心に据えた新しい社会的養護の充実・強化に向けた提言の中で、「発信すること」の意義と重要性について、シンポジスト3名から、三者三様の言葉で意見が述べられた。この「発信すること」の意義と重要性が参加者の共通課題として取り上げられ、認識を深められたことは成果の一つと言える。

“変えよう・変わろう” “どれだけ社会的養護の枠を超えて議論できるか?” と臨んだ今回の企画であったが、日本の社会的養護の仕組みや調整のあり方など、既存の制度に捉われた制度ありきの実践ではなく、実践するために何が必要なのか? という視点から提言ができたこと、そしてその思いを参加者と共有できたことは評価したい。

またシンポジウムにおいて、セミナーに参加下さった資生堂児童福祉奨学生の方々からご意見、ご感想をいただいたことも有意義であった。「社会的養護の今後の発展に寄与したい」「発信力のある人になりたい」など数々の力強い前向きなメッセージに、社会的養護の未来を担う人たちの力強さと頼もしさを感じた。社会的養護における人材育成を目的とするNPO STARSとして、奨学生の知見を深める学習や活躍の場を提供する必要性と可能性について考えさせられる機会となった。

一方、予定よりも報告時間が延びてしまったために限られた方の意見しか拾うことができず、議論の深まりに欠けてしまったことは残念である。

セミナー全体を振り返ってみると、終了後のアンケート結果からも判るように、榊原氏の講演への期待度が高く、集客への影響も大きかったと言える。NPO STARSが発足して初めての記念すべきこのセミナーに、榊原氏をお迎えできたことは非常に光栄である。子どもと家族に寄り添い、支えることを職とする私たちに、多くのことをご提示いただけたと思う。しかしながら、著名な講師に頼った研修を継続していくことは難しく、またNPO STARSの活動が、社会的養護における次世代リーダー養成を目指し、共に学び、行動し、育ちあうことを目的としていることを考えれば、基本的にはSTARS会員が主体となり、海外研修の知見を活かした実践報告を中心としたセミナーが開催されることが望ましいものと思われる。セミナーの方向性やあり方については、今後の検討課題としたい。

所感

今回のセミナーは前述の通り、「変えよう、変わろう! すべての子どもの幸せのために」のテーマのもと、37~39期のヨーロッパ研修の学びを振り返りながら私たちが進むべき道筋を確認し、既存の制度や支援の形に捉われない新たな提言を行うことを目的とした。講師である榊原氏の圧倒的な存在感と力強いメッセージに後押しされながら各シンポジストが現状について感じている課題や問題点を指摘し、対応についての提言を行えたこと、それを会場の参加者と共有し、意見が交わせたことは有意義であったと言える。しかしながら3ヶ年継続して行われたヨーロッパ研修は予防的支援・多機関協働等の取り組みにおいて学ぶべきところが多く、これらを含め、集大成としてまとめができたとは言い難い。また改めて、ヨーロッパ研修の総括の機会を設けたいと思う。セミナー終了後のアンケートには、NPO STARSに対する、期待の込められた温かいエールが沢山記されていた。これからである。期待の声に応えられるよう、ゆるぎない歩みを進めていきたいと思う。

文責 NPO STARS (福田・林・松原・春田)

【参考資料】 フォローアップセミナーアンケートの集計結果

アンケート回収数 30

<1> 当セミナーの開催をどのように知りましたか。（重複可）

- | | |
|---------------|---------|
| ① 郵送による告知 | 回答数： 19 |
| ② 知人からの紹介 | 回答数： 4 |
| ③ ホームページによる告知 | 回答数： 5 |
| ④ その他 | 回答数： 6 |

その他の具体的な内容

アルファオフィス（会員専用サイト）×2、施設からの紹介、財団からの紹介

<2> 参加しようと思った動機について。（重複可）

- | | |
|-------------|---------|
| ① 講演を聞きたかった | 回答数： 25 |
|-------------|---------|

具体的に：

- ・授業では聞くことの出来ない生の声を聞くことが出来ると思ったため
- ・社会的養護に対するの学びを深めたかったため
- ・日本の現状の再確認
- ・榊原さんのお話し、楽しみにしていました
- ・榊原さんの話は、たくさんの人に話を聞いてほしいです
- ・保育士の国家試験を受ける人たちの予備校の講師をしており、授業の参考にと…
- ・新聞記者さんの話に興味があった
- ・すべての子どもの幸せのためにということで、今の現状を知りたかった
- ・海外のみならず新しい情報や先進的な取り組みについての報告が知りたいため
- ・以前にも榊原さんの講演を聞いてすごよかったので、今日もまた聞きたいと思いました
- ・現場のマスコミの方の生の情報をお聞きしたいと思いました
- ・違った立場で、同じ施設を見学した方の話を聞きたいと思いました
- ・児童養護の現場がどう見えているのか、知る事ができて良かったです
- ・社会的養護のみならず、様々な家庭、子どもに関わることを聞かせて頂けると思い期待していました
- ・社会的養護に着目して下さっている時点ですでにありがたい。政治家やメディアを巻き込むことはとても大切

- | | |
|-----------------|---------|
| ② 39期の報告を聞きたかった | 回答数： 17 |
|-----------------|---------|

具体的に：

- ・ヨーロッパの研修に興味があるから
- ・社会的養護に対するの学びを深めたかったため
- ・フィンランドの政策について
- ・海外の福祉について聞いてみたいと思ったからです
- ・同期の発表のため
- ・海外研修に興味があった
- ・海外のみならず新しい情報や先進的な取り組みについての報告が知りたいため

- 39期として報告を聞きたいと思いました
- 報告書だけでなく、生の声が聞きたかったので
- 報告書だけではわからない生の声で

③ シンポジウムに参加したかった 回答数：14

具体的に：

- ヨーロッパ研修に興味があるから
- 38期の応援
- ヨーロッパ6ヶ国の予防的支援の総まとめを聞きたかった
- 保育士の国家試験を受ける人たちの予備校の講師をしており、授業の参考にと…
- 海外のみならず新しい情報や先進的な取り組みについての報告が知りたいため
- 今後の社会的養護のあり方に興味があった。ヒントが得られればと思った
- フィンランド、オランダの隣国の様子を実際に見学をした方から意見を聞きたかった
- ヨーロッパ研修全体から見えてくるものについて聞きたかったです
- この3年間の一連の情報整理

<3> テーマの設定に関する自由記述

- 授業でも「子ども」より「高齢者」のお話を聞くことが多く、制度も高齢者の方の制度は沢山あると先生方もおっしゃっていました。今日のお話を聞き、子どもたちへの支援と同時に家族への支援の重要性を感じました。今は制度がすぐには変わらないと思うので、自分が出来ることをしていきたいと思えます
- 現場で活躍している皆様、海外研修に行ったSTARSの皆様の中で、「変えていきたい点」をお話しいただくことで、様々な面から、更に社会的養護について考える事ができて良かったです。今日のお話から、更に自分の中で考察を深めたり、より深い学びへ繋げていけたらと思いました
- 39期の海外研修報告お疲れ様でした。発表者が二人だったこともあり、落ち着いて聞くことができました。情報が膨大なため、やはり、解らない部分もありました。質疑応答があると良かったと思えます
- 何が変えよう変わろうなのかよくわからなかった
- 社会的養護施設として働くものとして、施設の子どもの声を考えていましたが、自分の施設で出来る事、入所に至らなくてもSOSが出したくても出せない、家族の支援をしていく必要性を感じました子育てをしやすい国、ベビーカーでの移動のしやすい事1つでも親は認められていると感じるのでと思います
- 39期の他国の報告の中に法律の事が出ていましたが、日本でも児童福祉法があり第2条では国と地方公共団体が保護者と共に児童を~健やかに育成する責任を負うとあるのにそれがそうならない現状が残念です。STARSから、日本がどう変わって行けばいいか、発信していく必要があると強く思った
- 素敵なテーマです
- 確かに、制度があるのに深刻な状況だと言うことは学生の自分でも知っていた。福祉国家と比べてみると、今の日本に欠けている所が何か明確になるが、現状の日本では実施が難しいということは、今の政治などの状況を踏まえ、痛い程分かる事ができた
- スローガンのようなテーマ設定もよいが、現在の児童福祉実践におけるテーマも取り入れては…
- 研修に参加して数年経ちますが、まだまだ自分が変われることがあると思いました。施設の職員も世間も少しでも変われるようにしたいと思います
- 全ての子どもたちに対して福祉に関わる社会人として、自分自身の意識も行動も変えていかなければという思いを強くしました
- 現在、施設内でも自立支援計画を見直し、ケースの見直しをおこない、支援方針を共有し、具体的に明日から何が出来るか、何をするかを考える動きになっています。小さいことかもしれませんが、少しずつ「変えよう・変わろう」になればと思います。今回の事も持ち帰り、具体的に何が出来るかを考えて実践したいと思えます

- 海外研修に参加された方の思い、考え、取り組みがきけて良かったと思います。「社会が変わった」ということ、「切れ目のない支援」ということ、39期のテーマであった「家族支援」を大事に今後も頑張っていきたいと思います
- 海外研修に参加させて頂いたこと自体ですでに変わっていることもあるし、見聞が広がる事で意欲もアップし、より良い方向へ進んでいきたい欲求が強まるので、良かったと思います。「すべての子どもの幸せのために」のすべては社会的養護の子どもだけにならないようにも望みます
- 3年間のヨーロッパシリーズ、各国間と日本の違いを具体的に知り、現状を考え、次のステージを夢見で語り合い、それを具現化できる努力をする。現場で愚痴るだけに終わらせず、全国の仲間たちと情報の共有や意識をシンクロさせることで、一般社会からもっと関心や評価をもらえるような社会的養護にしていければ…

<4> その他自由記述

- たくさんの生の声を聞くことが出来ました。ありがとうございました。ここで学び、満足感に満たされず、学校に戻っても勉強して行こうと思います
- ネウボウのような、小（中）学校単位の保健福祉サービスの場所があれば本当がいいと思います。子どもが求めているものを用意できるように、そのためには協力してくれるスタッフ・ボランティアなどを集める・育てることが大事だと思います。自分の仕事のなかでもそういうことを意識して実践して行ければと思います
- 今日のお話で、学びを深める事ができた上に、モチベーションの向上にもつながりました。ありがとうございました
- シンポジウムではそれぞれの業種の方から今できることを聞くことができ、よかったです。お疲れ様でした
- 午後からの参加となってしまいましたが、やはり午前中から参加出来ればよかったなと感じています
- セミナーもですが、情報交換会も楽しみにして参加させて頂いています
- すばらしい北欧モデルを見るのはよいが、日本ではどうしたらいいかを一歩進めて考えていくべきだと思います。一般の人を含めた意識教育、必要だと思います。関係者は常に具体策を作っていくべきだと思います
- 準備ありがとうございました。施設に帰ってもう一度見直し実践にかえていきたいと思います
- 若い人の意見はとても新鮮でよい。今後も続けてほしい。他職種の人、これからも参加させてほしい
- 奨学生の方が参加して下さっていたのに驚きでした。とてもよかったです
- 学生という身分でこのようなセミナーに参加させていただきありがとうございました。社会的養護などを今学業で学んでいる中、この様にわかりやすく皆が皆聞くことが出来ないことを自分が聞いて、これからの学業、そして仕事に必ず役に立つと思いました。また、将来は今の日本の子ども福祉を変えられるような保育士になりたいと思える有意義な時間でした。発信力のある人間にもなりたい
- 6人の奨学生の話から、日本の社会的養護も「いい仕事している」と安心した
- 奨学生の話が聞けてよかったです
- 役員、39期の方を除くと、全体の参加者は少ないのが残念な気がした
- 初めて参加しましたが、力強いメッセージを受け取ることができました
- 榊原さんの講演が、色々なものを見て来て、色々な視点で見えるものがあることを知りました。もっと知る事、知ろうとすること、アセスメントが大切だと再認識でした
- 藤野先生のコメントや、財団奨学生の方々のコメントを聞くことができてよかったです
- 時間がもっと欲しかったですね。特に昼が短く、不慣れな土地でのお店探しには焦ります。お店情報を頂けたり、持参を促すなどのアナウンスがあると助かります